

あなたにとって 縁を感じる ときは?

男性介護者の集い「中北の家」に
集まった皆さんに伺いました。

今年の7月からメンバー
となりました。家族の会
は他に3か所行ってい
ますが、この場では日頃
の介護で思い詰まった
気持ちが発散できます。

皆さんのお話を伺う
ことで、同じ立場だと
共感し、つながりを感じ
ますね。

男性介護者という同じ
立場の人たちと悩みや思
いを共有しているから、
この場所は安心して居
心地がいいです。



深水正治さん (75歳)

山本弥織さん (77歳)

石崎章さん (71歳)

妻を20年ほど介護し、
他界してから10年経
ちます。メンバーの中
で一番の高齢ですが、
私の経験が皆さんに
少しでも役立って頂け
たらと会に参加するこ
とで、介護後もさらに
縁が深まっています。

私は男性介護者の皆
さんに女性介護者の
視点で助言させてい
ただいています。家族
の会で知り合った人
が、私の知っている別
の人とつながっている
ということに縁を感じ
ますね。

太田耕一郎さん (84歳)

青木雅子さん (66歳) (事務局)



サポ
参加して
役です。

男性介護者の 皆さんとの出会いが 縁ですね!

妻の母と妻、認知症を患った実の母と、女性
3人を介護した経験が今の会の結成のきつ
かけです。そして縁が広がり人生が深まりま
した。講演に行ったり、マスコミにも取り上
げて頂いたり、母の介護が無ければこんなつな
がりはありません。母が私の縁を広げてくれ
たんです。

小宮俊昭さん(71歳) 代表 (事務局)



須賀井透さん(78歳)

私も認知症の母を在宅介護で看
取り、今は支援者の立場で関わっ
ています。小宮さんとは県社協の
レイカディア大学で同期という縁
もあり、「認知症」を患った家族を
介護するという共通の立場でつ
ながった縁ですね。介護は100
者100通りです。一人ひとりの縁
を深く受け止めています。

田井中庄典さん (68歳) (事務局)

この会は濃い縁
でつながって
いますね。さまざま
な介護の思いを
さらけ出して気
持ちは楽になる
場所なんです。そ
から更に皆
さんとのつなが
りが深まりますね。

皆さん先生なん
です。どんな困りご
とでも、何を聞いて
も答えてくれます。
男性は洗濯一つで
きなくて、そんな
こともこの会では
遠慮せずに聞くこ
とができるんですね。

地域の方の支えがあ
って妻の介護がで
きています。それ
が私が仕事で外に
出ている間、妻が
地域の人たちとの
つながりを作った
からなんです。そ
んな妻にも感謝
です。

場所というよりも、
その時なんです
ね。話ができて心
が通じた時に縁を
感じますね。それ
が代表の小宮さん
でした。その出会
いがきっかけでこ
こに引き寄せられ
ていますね。



飯田寛さん (70歳)

徳田利一さん (72歳)

松村逸雄さん (65歳)

苦しい時に会
い、会の皆
さんの励
ましの言
葉に救われ
ました。今
は助言者
の立場で
すが、ず
っと心の
支えにな
る人たち
なんです。

斎藤力さん (80歳)

中西義一さん (70歳)

男性介護者の集い「中北の家」 (野洲市中北97)

問い合わせ先 TEL.080-3797-4530
(代表・小宮)

これまで介護者は家にいる妻といった女性のイメージがある中、この会は認知症の家族を抱える男性介護者中心の集まりです。2009年に現代表の小宮俊昭さんが立ち上げました。「私たちぐらいの年齢の男性は家事ができない人が多く、妻が病気になると買い物一つできない状態なんです。他の会だと女性介護者の参加が多く、なかなかそうした悩みを切りだしにくいんですね。自分と同じ立場の男性と悩みを共有し、助言し合う中で、少しでも日常の毎日の介護に張り合いを持って欲しいと願う小宮さんの思いからのスタートでした。女性の下世話など、恥ずかしくて聞けなかったことや、男性ならではの様々な介護での困りごとが浮上してきました。特に男性は周りとのコミュニケーションを作らず自分だけで介護

してしまう、それはまじめで一生懸命さからだ」と小宮さんは言います。当事者から助言者側になっても、悩みを共有したもの同士の縁は更に深まっています。



▲現在の会員は13人。月一回の集まりでは、それぞれの介護体験の悩みを聞いたり助言したりする中で、会員同士の交流会として旅行や忘年会も企画。開催日：毎月第4火曜日10:30~14:30 参加費：お昼弁当込みで500円



▲個人宅が「中北の家」として地域交流施設として貸し出され、アットホームな雰囲気の中で、会員同士の交流会として旅行や忘年会も企画。着物のリフォームのお店も隣接している。

えにし 通信 縁 Vol.4

誰もが「おめでとう」と
誕生を祝福され
「ありがとう」と
看取られる地域づくり
マガジン

2015.10.1

野洲市中北にある「中北の家」で開催されている「男性介護者の集い」に集まった皆さん。(詳しくはP12参照)



CONTENTS

- * 「ハローわくわく仕事体験」レポート
A/B/C P2-5
施設や里親のもとで育つ子どもたちが夢や希望をもって自立していくために
- * 縁をゆめよう・深めようインタビュー P6-7
様々な分野の人が専門性や役割を明確にし、人と地域の資源を結びつけていくことが大切です。
D 公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
会長 澤和清(さわかずよ)さん
- * 滋賀の縁実践レポート P8-9
①遊べる・学べる淡海子ども食堂
②今年度第1回「ふく・楽cafe〜縁〜」を開催しました!!
- * インフォメーション P10
- * 滋賀の縁創造実践センターの目標・会員名簿 P11
- * 目 あなたにとって縁を感じるときは? P12

【発行】滋賀の縁創造実践センター 第四号 発行日/平成二十七年十月日 〒525-1007 草津市峠山1丁目0番1号 TEL:077-569-4650 FAX:077-567-5160 http://www.shigashakyu.jp/enishi

滋賀の縁創造実践センター

施設や里親のもとで育つ子どもたちが夢や希望をもって自立していくために

子どもたちの将来の自立に向けて、施設(ファミリーホーム・里親含む)と企業・事業所がつながりました。この夏休みから、中高生の子どもたちが大人と相談しながら自分で希望し、いろんな仕事を体験しています。今回は、子どもたちと社会の接点となり、地域で子どもたちを応援してくれる企業・事業所を紹介します。



▲企業からもたくさんお知恵をいただきました。

■自立にむけて不安をかかえる子どもたち

滋賀では、約350人の子どもたちが、さまざまな事情で親と一緒に暮らすことができず、施設や里親・ファミリーホームのもとで暮らしています。滋賀県児童福祉入所施設協議会調査研究部会の調査によると、県内施設入所児童の約7割が、ネグレクトで十分な養育を受けられないなど、親からさまざまな虐待を受けた子どもたちです。

こうした児童養護施設等の社会的養護のもとで暮らす子どもたちは、原則として18歳になると施設や里親のもとから自立していくことが求められます。子どもたちの多くは、親に容易に頼れない状況にあり、一人で生活をしていくことになります。

また、高校卒業後に大学や専門学校へ進学する割合は、全国平均が約8割であるのに対し、施設

の子どもたちは2割程度にすぎません。施設によっては自分で進学基金を設けるなどして進学しようとする子どもを支えています。就労する子どもがほとんどです。施設を退所すると、まず「住む場所」の確保が大きな壁となります。家を借りることができたとしても、社会経験が浅い中で、仕事、家事、家計のやりくりを全部自分ひとりでやっていかなければなりません。親の支えも、公的な支援もない中で、退所する子どもたちにとっては、厳しい現実が待っているのが現状です。

■「ハローわくわく仕事体験」を通して社会とつながる

退所後の相談体制や居場所づくりももちろん大切ですが、それだけではなく、彼ら自身が幸せな人生を築くためには、「働き続けられる」ことが第一歩になります。滋賀県児童福祉入所施設協議会調査研究部会の調査では、自立1年後、約半数の子どもたちが転職あるいは無職状

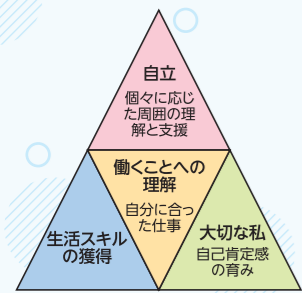
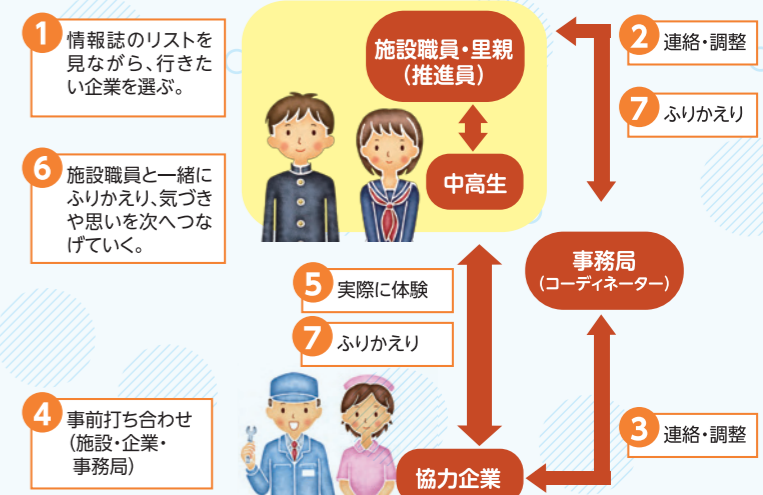
態にあることが明らかになりました。まわりに相談できないままに仕事をやめてしまい、収入がなくなると、住む場所も失うことになります。

「働き続けられる力」を育むうえでは、「仕事をする」との意味を知り、自分に合った仕事を見つけることが土台となります。そして何より、施設の外の人たちとのつながりをつくり、少しずつでも自信をつけていくことが大切です。緑センターの「要養護児童の自立支援」小委員会では、昨年度から具体的に検討を始め、予防的に取り組みをすすめるよう、まずは就労体験事業「ハローわくわく仕事体験」に取り組むことになりました。そして、連携調整役となる推進員を各施設と里親・ファミリーホームから選出し、夏休みの実施に向けて推進委員会で検討を重ねてきました。

この事業には、県内の中小企業を中心としたさまざまな業種の企業・事業所にご協力をいただいています(P4参照)。始めるにあたっては、企業と施設の懇談会や企業

への個別訪問を行いながら、社会的養護の子どもたちの自立について一緒に考えてきました。

そして、7月には中高生と施設職員を対象に、自分の得意なことや好きなことを見つけながら「働く」ことを考える「自立に向けたキャリアアップセミナー」を開催し、一人ひとりが気持ちを高めつつ、実際の体験が始まりました。



企業紹介1
お互い「はじめまして」で緊張しましたが迷いながらいろんな道を見つけるステップにしてもらえたら嬉しいです。



◀「3日間の体験を終えた本人から直筆のお手紙が届き、何より嬉しかったです。宝物にします。」と平川さん。

株式会社カロカ急配(運送業)(守山市)
代表取締役社長 平川 千波 さん

施設や里親のもとで暮らす子どもたちのことは、私自身が学生時代の実習で一度施設に行ったことはあったものの、ニュースで見ると詳しいことは知りませんでした。何か力になりたいということだけではなく、運送業界としても、若い人にもっと魅力を知ってもらいたいという思いもあり、従業員みんなで明るく迎え入れようと思いました。運送業といっても、荷物のピックアップやレーンでの作業等いろんな仕事がありますが、中でもトラック運転手は、乗ったらひとりの世界。責任感の必要な仕事であり、いろんなところに行けることも魅力です。そのおもしろさを感じてもらえたらということで、トラックの横にも乗ってもらいました。

受け入れにあたっては、施設の職員さんと事務局で打ち合わせをしましたが、それが本当に大切だと思いました。お互いが安心できるように、子どもの性格や得意・不得意など最低限のことを事前に共有することで、不安はありませんでした。

初日は緊張している様子もありましたが、3日間もあったらいろんな話ができます。だんだん打ち解けてきて、最後の日には笑顔で「ありがとうございました。」とあいさつしてくれました。受け入れたこちらが逆に喜びを与えてもらったような感じで、「次も受け入れたい」と背中を押してくれたのは、来てくれた子どもです。わが社の若手社員も、「後輩が来た!」という感じで、気持ちも引き締まって何より良い研修でした。

今は、自分で「選ぶ」時代です。子どもたちに世の中のいろんな仕事のこともっと知ってもらいながら、子どもたちが「選ぶ力」をつけて自立していけるように、これからも企業ができるサポートをしていきたいです。



企業紹介2
「やってみたい!!」その気持ちを応援したい。真剣に取り組む姿は、従業員にとっても新鮮な体験になりました。



▲きれいな職場で安全に作業、お客さんにも気持ちよくをモットーに! 笑顔と温かいまなざしで…

株式会社小杉自工(東近江市)
代表取締役社長 田辺 良信 さん(写真左)
サービス課長 奥井 孝志 さん(写真中央)

うちの職場には、毎年中学生が職場体験に来ており、今回も同じように自然に受け入れられました。まずは「初めてのいろんな体験を楽しんでくれたら」という思いで、わたしも他の従業員も同世代の子どもをもつ親の目線で、自分の子どもに重ねて見ておりました。遠方にもかかわらずうちを選んでくれて、自力で交通機関を利用して30分前には着くように来てくれましたし、あいさつもしっかりでき、聞いたことにもきちんと受け答えしてくれました。

まず感じたのは、「本人が希望して来ているので、取り組む姿勢が前向きだ」ということです。義務的に来ているのではなく、本人の「やってみたい」という思いがストレートに伝わってきたことがとても新鮮でした。仕事をやりとげた時の達成感、お客さんに「ありがとう」と言っていた時の気持ちを、従業員との作業や会話の中で実感してくれらうと思います。

今、子どもたちに何が必要か、テーマや

ねらいをしっかりと見定めた取り組みが必要だと思えます。体験先の選択肢や日程調整など、「これしかない。無理、できない。」とあきらめるのではなく、「どうしたらできるか」子どもと一緒に話し合ってお互いに決めるという、事前でいねいな過程をふむことができたのはよかったですね。

転ばぬ先の杖というか、何でも先手をうって「あかん、あかん」と言ってしまうのではなく、子どもたちにはいろんな経験をしてから社会へ出てほしいと思います。施設の子どものも同じです。私たちとの出会いが社会の接点になっていくことを願います。



▲部活の合間を縫っての4日間。整備、板金・塗装をマンツーマンで指導、最終日には塗装をみごとに完成!

現場の声



小鳩会
こぼと子ども家庭支援センター
相談員 廣瀬 直子 さん

小鳩会に勤務して11年目。
現在は退所児支援に
取り組んでいる。

退所後の長い人生、どういう道を行ったら幸せなのか
この体験を通して職員も一緒に深く考えていきたい

今回の就労体験で子どもたちに貴重な機会を頂けること、とてもうれしく思っています。施設に在る間に退所後の自立に向けた準備をしていますが、やはり自分の力で成功や失敗等の経験をして初めて自分自身についてわかることってありますよね。個人的には「自立って自分自身を知ることかな」と感じているので、たとえ失敗しても職員がそばに在る施設で暮らす間に、このような機会を頂けるのは大変ありがたいです。

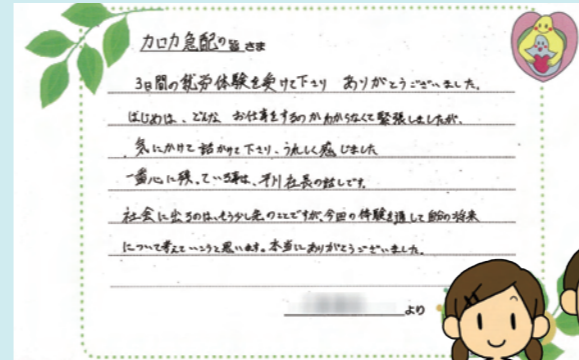
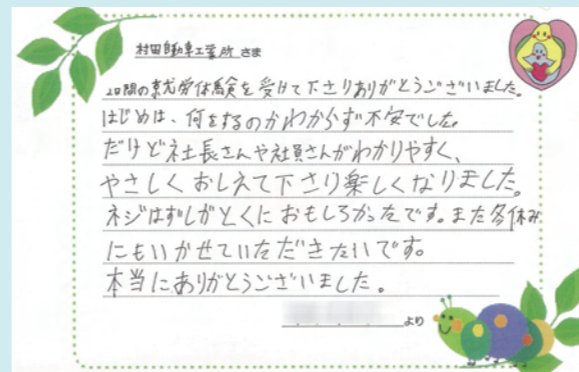
施設で暮らす18歳までの間はごく一部でしかありませんが、もっとも著しく成長する重要な時期でもあります。退所後の長い人生、この子はどうか生きるんだろう、どういう道を行ったら幸せなのかを、この体験を通して職員も一緒に深く考えていきたいと思っています。さまざまな事業所で就労体験をさせて頂くことで、子どもの将来の可能性が広がっていくのではないかと思います。子どもたちと一緒に、ひとつひとつ丁寧に取り組みたいと思っています。

実際に就労体験をするにあたり、施設で暮らす子どもたちは、さまざまな背景から自己肯定感の低い子も多いですが、「自分はこういうことに興味があるか」「どういうところなら頑張れそうか」をまずは考えてもらって、そこから体験先の提案をしました。

実際に体験が7月から始まりましたが、行く前は不安と緊張でいっぱいだった子が、帰ってきて輝くような笑顔になっている——そんな表情の変化を感じることもあります。社会で自分を試してみ、「自分にもできる」「自分も役に立つ」と感じ、キラキラした顔をして話してくれたり、一方で自分には向いていると思っていたが、簡単なものではなかったと感じたり、そのひとつひとつがとても貴重な経験だと思っています。

そうした体験から「自分にはこういう強みがあるから頑張れそう」「施設の外にも自分を見てくれる人がいる」ということに気づき、自信を積み重ねてほしいと思います。そして、いつか就労体験先が退所後の子どもたちの居場所のひとつとなり、施設以外にも気軽に立ち寄れる場所となることを願っています。

中高生の声



お礼とともに、子どもたちが
素直な気持ちを
伝えました。

ありがとう
ございます!



この夏休みには、一人ひとりの子どものペースに合わせて、10人の中高生が自分の選んだ体験先でいろいろな仕事を体験させていただきました。日数や仕事内容は、自分の得意不得意を伝えて、相談しながら決めました。中には、電車やバスを乗り継いで施設から遠い企業へひとりで通うことができ、そのことが自信になった子どももいます。

そして、この「ハローわくわく仕事体験」では、自分なりに「働くことの意味」を感じ取るだけでなく、社会には自分を応援してくれる人がいることを知り、新しい“人とのつながり”ができたことが、何よりの成果でした。

たった数日ですが、小さな成功と小さな失敗を積み重ねながら「大人」と時間をともにすることで、子どもたちはやりがいや達成感を味わい、働くことへの厳しさと仕事に対する誇りを感じる事ができたと思います。子どもたち自身の力を引き出し、いろんな人とのつながりをつくりながら、一人ひとりが自分らしく輝けるよう、社会全体で子どもたちの自立を応援する取り組みをすすめていきます。

企業紹介3

出会いと「ありがとう」が
つなぐ『ご縁』を大切に。
一つになってお客さまを
お迎えするチームの
一員として、お互いが
成長できました。

株式会社国華荘 びわ湖花街道
(大津市)
社長室次長 女将代理
岡田 智恵美 さん

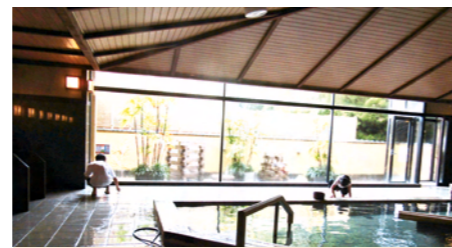


二人の中学生*には、旅館のさまざまな仕事の中から、それぞれ自分で考え選んでもらいました。きらびやかなイメージの旅館ですが、客室清掃、フロント、お食事処など、お客様をお迎えする空間をつくるためには、たくさんあるセクションでさまざまな下準備が必要です。表舞台に出る者も裏方も一つになって、チームでお客さまを迎えます。従業員とともに普段の仕事ぶりを体験して、旅館にはいろんな仕事があって、大変だけど楽しい仕事だということを知ってもらえたらと思います。

お客様とふれ合えることは、旅館の魅力のひとつです。人前に出るのは苦手だと決めつけるのではなく、実際に体験してみて自分を振り返り、「これならできるかも」と考える機会になるとよいですね。お客様は一人ひとり違うため、私たちの仕事は「これがベスト」ということはなく、毎日が訓練みたいなもので、感動、感謝、根性、根気、想像力など「人間力」が高まります。お客様からのお褒めの言葉だけでなく、従業員同士でもお互い感謝し高め合い、仕事のモチベーションを上げています。学校と違う場「職場」で「おつかれさま。ありがとう。」と言ってもらって、「失敗もしたけど楽しかった」という体験になればと思います。そして、旅館で働いてみたいなどと思って

※別の施設から、別期間に1人ずつ体験しました。

もらえたら嬉しいです。
私は、これまで施設の子どもたちと直接接する機会はなく、その状況についてもまったく知りませんでしたが、私が知ったことで従業員にも伝えることができました。これまでも目に見えない不思議な「ご縁」を大切にしてきましたが、今回の縁(えにし)とのご縁がどんどんつながって広がっていくことを期待しています。



▲旅館のたくさんの業務の中から、自分で選んで決めた清掃の仕事に挑戦!



▲お辞儀の仕方を一生懸命に覚えようとする姿に、従業員も初心にかえります。

「ハローわくわく仕事体験」協力企業・事業所一覧 (9月18日現在)

※順不同(事業所所在市町を掲載しています)

- <大津市> (株)村田自動車工業所 / (福)せんだん二葉会 せんだん保育園 / (株)国華荘びわ湖花街道 / (株)ピアライフ / ニューワンス(株) / (株)古川与助商店 / 有限会社ロング / (株)六匠 / 滋賀双葉ビル整備(株) / (福)真盛園 小規模多機能型居宅介護事業所「良の家」 / (福)幸寿会 (特養)カーサ月の輪 / (福)大津市社会福祉事業団 (特養)榛原の里 / (福)楽樹(特養・デイサービス)湖の花 / (福)美輪湖の家大津 / (福)小鳩会小鳩乳児院
- <彦根市> ウイングフルカワ / (福)近江ふるさと会 (特養)近江第二ふるさと園 / (有)アップU彦根
- <長浜市> (福)まんてん (特養)まんてん塩津 / (福)まんてん グループホームまんてん塩津 / (福)まんてん まんてん小谷 / (福)グロー (特養)ふくら / (福)達真会 (特養)けやきの杜
- <近江八幡市> (株)安土建築工房 / 前出産業(株) / (福)グロー 老人ホーム安土荘 / (福)ほのぼの会 グループホームしのだ(福) / (株)和た与 / (福)一善舎(特養)赤煉瓦の郷
- <草津市> (株)アサノ トラットリア デラ・メーラ / (福)みのり (特養)ほぶら・なみき / (株)江州 / (株)エッセン
- <守山市> (株)カロカ急配 / (福)慈恵会(特養)ゆいの里 / (福)あけぼの会はずねだこども園
- <栗東市> (株)びわ湖タイル / (株)エフアイ
- <甲賀市> (福)あいの土山福祉会 デイサービスエーデル土山 / (福)甲南会 (特養)せせらぎ苑 / (有)カーテックウカイ / (株)ティグ水口 / 日本ロジパック(株)
- <野洲市> (特非)陽だまり / (福)野洲慈恵会 (特養)悠紀の里 / 東洋産業(株)
- <湖南市> (福)近江和順会 (特養)ヴィラ十二坊 / 小規模特養「百伝の杜」 / (福)近江ちいろば会 ケアハウス ピスガこうせい
- <高島市> (福)ゆたか会 さわの風 / (福)ゆたか会 (特養)清風荘
- <東近江市> (有)山田保険事務所 / (株)プライウッド・オウミ / 宮川バネ工業(株) / (株)三省堂 (福)八身福祉会 / (有)伊徳織物整理工場 / メリーポエム洋菓子店 / (株)小杉工 (福)日野友愛会 (特養)沖野原 / (株)楠亀工務店 / (有)田邊工務店
- <日野町> (福)グロー 老人ホームさつき荘
- <竜王町> (株)大鋼製作所
- <愛荘町> 滋賀建機(株)
- <多賀町> (福)湖東会 (特養)いぬかみ / (福)達真会 多賀清流の里

いつでも
おいでや!

待ってるよ!



様々な分野の人が専門性や役割を明確にし、人と地域の資源を結びつけていくことが大切です。

社会福祉士は「おめでとうからありがとうまで」の人生の中で、本当に困っておられる人に関わりをもつ仕事です。そんな社会福祉士が集まり、交流している滋賀県社会福祉士会会長の澤和清さんに、多職種連携の大切さや縁センターへの期待について、お伺いしました。

公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
会長

今回お話を伺ったのは

澤 和清(さわ かずきよ)さん

主に保健医療福祉分野の行政職として活躍後、2010年に社会福祉士資格を取得。2012年4月に甲良町で「さわ社会福祉士共同事務所“ほっと”」を開業。2014年2月に、公益社団法人滋賀県社会福祉士会会長に就任。

公益社団法人滋賀県社会福祉士会は1993年に設立された団体で、社会福祉士の専門性の確保と社会福祉の援助を必要とされる人々への支援をしようと活動している。大津・湖南・甲賀・東近江・湖東・湖北・湖西の7ブロックに分かれて活動を展開している。



今まで「支えられなくてごめんなさい」と言ってきた人に新しい手を差し出してつないでいく

谷口 社会福祉士の活動の場は福祉だけにとどまらず、医療そして教育の分野でもますます役割が期待されていますね。滋賀県社会福祉士会はどんな活動をしているのですか。

澤 今、県内には2500人以上の社会福祉士がいます。社会福祉士会の会員はそのうちの約2割、500人弱ですが、専門職同士が勉強し合い、情報を共有し合う場をつくっています。社会福祉士の基本的な価値観である、個人の尊厳、権利擁護、社会的正義を大切に、「なんとかならないだろうか」という思いを互いに出し合い、気づいたことを言葉として発信していく、そういう仲間が寄り集まれる場があるということは職能集団の強みですね。

福祉の現場の人たちは一生懸命な分、みんな疲れています。だからお互いの思いを共有したり、情報交換するプラットフォームのような場を、県全体だけでなく身近な地域でつくりたいと思っています。

谷口 制度の枠にとらわれず必要な支援ができるよう知恵と力を出そうという縁の活動のなかで、人の生きる力をまもり、支える社会福祉士の役割は大きいですね。

澤 福祉サービスを提供するために様々な分野の専門職の連携を図り、調整するというのは社会福祉士の大きな役割の一つだと思っています。た

だ、これまではその役割を発揮したくても活動の場が限られていました。地域にどんな悩みや思いを持った人がいるか、どんな社会資源があるかを知っていても、そのことを他の専門職や支援者と共有する場、顔の見える関係がないと活かされません。それが縁の取り組みのなかで社会福祉士の専門性や役割を知ってもらい、本来の役割である「つながりをつくる」活動ができるようになってきたと思います。

縁の会員として集ったメンバーは、言わば、困りごとを抱えた人に対して「ごめんなさい」という気持ちを持っていた人たちだと思います。制度や事業、予算で守られているけれど縛られ、対象を限定された中で一生懸命がんばってきたのですが、それは反面、対象外の人に対して「ごめんなさい」と言ってきたということです。しかし今度は、これまで対象にできなかった人たちに、みんなが力を持ち寄り新しい手を差し出すことによって福祉につないでいく。それが社会福祉法人の地域への「社会貢献」という形になっていけばいいなと思っています。また、現場で働いている人が「このことを放っておいたらいけないな」、「なんとかしたいけど難しいな」と思うことを「気づきシート」に書き込み、支援を検討する場に届ける仕組みも動き始めました。この取り組みを活性化させて多職種が連携するチームづくりにつなげることができれば、縁の底力になっていくと思います。

支援が必要な人を真ん中に置いて見える形で連携していただくことが大切

谷口 社会的な支援につながることで、本人や家族の生活がひろがっていったと感じられた事例はありますか。

澤 私が今関わっているダウン症で多動性の人で、お風呂といえば水風呂にしか入れられない人がいます。家族の中で限られた時間と方法で水風呂に入る、という経験しかしてこなかったために、お湯を嫌うようになってしまったんです。お母さんは「この子の面倒は自分が見る」という思いを強く持っておられるので、ショートステイの利用をすすめても、なかなかいい返事ももらえませんでした。でも「お母さんが世話できなくなった後のことを

考えると、いろんな人に知ってもらって支える人を増やしていきたいんです。だから協力してもらえますか?」と話しかけことで、利用されるようになりました。

谷口 今、縁で力を入れているのは、分野を超えるということです。そこでも、いろんな分野におられる社会福祉士の役割が大事になってきますね。

澤 多職種連携では「チームで頑張る」という場面が結構あるんですが、生活者はいろんな場面を持っています。たとえば学校の場合、子どもが持っているいろんな課題を学校の中だけで解決しようとするのが難しい。そこにスクールソーシャルワーカーがいれば、家で、また地域の中で子どもがどんな場に置かれているか、お父さんお母さんが置かれている環境などが複雑に絡み合い、その結果としてしんどい状況が起きていることがわかってきます。そうした背景の部分まで対応していこうとすると、子ども関係の専門職だけではなく異分野の人とも連携を取り合うことが必要になってきます。相談援助にかかわる社会福祉士は、いろんな形でいろんな視点から、ご本人を真ん中に置いて見える形で連携をつくっていけるといいですね。

「福祉の地域力」を高めて新しい知恵で仕組みを創造していく

澤 縁の最終目標は、制度や事業の外にある人が必要としている支援を、地域のつながりの中で出てきた知恵や工夫で補完しあえる仕組みを作ろう、ということだと思います。そのためには、地域にいる様々な分野の人たちが、自分たちの専門性や役割を明確にし、地域の社会資源をしっかりと学習し、人と資源をいかに結びつけていくか、ということに取り組むことが大切です。これまでは「地域の福祉力」を高めることが大事、と言われてきましたが、それだけではなく「福祉の地域力」を高めること、つまり、福祉分野の方は必ず地域におられますが、どれだけネットワークがつながっているか、顔の見える関係がどれだけあるか、ということも大切だと思うんです。そうすれば、新たなサービスをつくるなど社会開発が必要な場合でも、新しい知恵で創造して

いくことができます。

谷口 そうですね。縁の理念である「人を大事にする」、「孤立をなくす」ことは、人の力でできることであり、人の力でできないことです。支援者が分野も職種も関係なくつながっていけば、協力しあって物事が解決できる。そのために、「あきらめない、力を合わせて出来ることを見つけてやっていく」という基盤を持った社会福祉士さんが見つね役になってくださることに大いに期待したいと思います。

今日はありがとうございました。

気づきシートを活用して、地域のニーズを届けてください!

滋賀の縁創造実践センター事務局
ケアマネジャー・社会福祉士 藤木 優子さん

私は今年3月まで民間の介護施設でケアマネジャーとして働き、現在は縁センター事務局で「滋賀の縁塾」の企画に携わっています。今年度のテーマは「多職種連携のチームづくりを学ぶ」です。各地の福祉の現場でヒアリングを行い、様々な職種の方の意見や思いをお聞きする中で、現場の声を支援につなげたいという思いを持つ方がたくさんおられることが分かりました。例えば気づきシートで、保育士から「園児のおじいさん、おばあさんが認知症と思われる家庭があるが、どこかに相談されているのかな?」という声が上がっていました。このように、支援が必要なのに把握できていない事例があるのではないのでしょうか。ぜひ気づきシートを活用して、地域のニーズを事務局に届けてください。



インタビュー／
谷口郁美
滋賀の縁創造実践センター所長

PART1 モデル事業募集開始!&プレ実施の様子をお伝えします!

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」

地域 みんなでつくる、地域の子どもの居場所「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業の募集を開始しました!募集に先立ち、滋賀県内で子どもの夏休み期間中にプレ実施を行った取り組みの様子をお伝えします。

食堂名	実施主体	開始時期、実施日
晴嵐みんなの食堂	NPO法人CASN	5月に1回、夏休み中に1回、今後は定期開催。
おおつ子ども食堂のぞみ	大津市母子福祉のぞみ会	夏休み中は月2回、今後は月1回開催。
おいわか子ども食堂「おいで屋」	老いも若きも	夏休み中に3回開催、今後は定期開催。
老人ホームながはま ども食堂	社会福祉法人グロー	8月19日開催。毎月第3水曜日開催。
ゆうあいこどもカレー★食堂	栗東市社会福祉協議会	8月28日開催。毎月第4金曜日開催。

参加した子どもたちからは、「また来たい!」「カレーを自分でつくらせてもらえて楽しかった!」等の声がありました。

また、大人も「食材は住民の方からいただいた」「次の食堂のメニュー何にしたら子どもら喜ぶかな?」等、どの取り組みでも、既にあるつながりを活かしながら、無理なく、楽しみながら取り組みをされていました。

一方で、「しんどそうな子どもが来たとき、どうすればええんやろか」「子どもをどうやって呼びかけようか」等、今後に向けた課題も見えてきた様子でした。

縁センターでは、これからこのような「子ども食堂」が県内各地で開かれることによって、寂しさやしんどさを抱える子どもが地域で見守られ、育まれる場がたくさんできることをめざし、モデル事業のよびかけを行っていきたく思います。

モデル事業についてのお問い合わせは、縁センター事務局または、縁センターの会員法人までお気軽にお問い合わせください。

※チラシ・必要書類一式は縁センターホームページからダウンロードできます。

■研修会を開催しました!

また、県内の市町社会福祉協議会職員を対象にした研修会も実施しました。

- ☆講師: 徳丸ゆき子氏 (大阪子どもの貧困アクショングループ)
- ☆事例報告: 井上由美氏 (大津市社会福祉協議会)

研修会当日の様子です☆

今回は社会福祉協議会の職員を対象とした研修会でしたが、今後、「やってみよう」と思っている方や取り組みをはじめた方を対象とした勉強会や交流会も検討しておりますので、詳細が決まり次第ご案内いたします。



講師の徳丸さん

「地域にしんどい思いをしている子どもは必ずいるので、まず調べる」「本人の声を聞き、共に活動をつくっていく」「小さい規模で良いからやってみよう」「楽しみながら活動していく」等、たくさんのメッセージをいただきました。



報告者の井上さん

大津市内のプレ実施の取り組みに市社協職員として関わることや難しさについて実践者ならではの話を頂きました。



おいわか子ども食堂「おいで屋」(大津)

地域の居場所子ども食堂が開かれました。



ゆうあいこどもカレー★食堂(栗東)

60名ほどの子どもたちが来ました!地域のおばちゃんも張り切っています!



老人ホームながはま ども食堂(長浜)

子どもたちは食堂のれんぶくりやカレーづくり等しました!



PART2 ★今年度第1回

「ふく・楽cafe〜縁〜」を開催しました!!



「皆さん、福祉って何色やと思いますか?」

こんな問いかけから始まった、今年度第1回となる学生と福祉職員の出会い・語りの場「ふく・楽cafe〜縁〜」(平成27年7月18日(土)開催)。この事業は、現在福祉を学んでいる、あるいは福祉に興味を持っている学生が縁センター会員団体・法人等のさまざまな福祉分野の若い職員と出会い、柔らかい雰囲気の中で語りあうことで福祉を楽しむ誘いとなり、今と未来の滋賀の福祉の現場力を高めることをねらいとしています。今回は主に県内湖北地域の大学に通う学生の皆さんにお声かけし、彦根勤労福祉会館にて開催しました。ゲストスピーカーは、高齢者・子ども・障害・地域・独立・訪問看護という6分野のキラッ★と輝きながら働く若手職員の皆さん。一人ずつ仕事に就かれた経緯や学生時代の話、今の仕事との向き合い方をお話いただくゲストスピーチの後、ブース交流ではすべての学生が全分野のゲストと語り合う時間を持つことができ、和やかながらも熱く密度の濃いひとときとなりました。

★参加者の声★

- 今自分が就活で悩んでいることもあって、ゆっくり考えたらいいよって優しく声をかけてもらえて嬉しかった
- 想像していたものと違い、ワイワイして話しやすかった
- さまざまな分野の考え方を聞けるようになった
- ほぼマンツーマンで、すごく贅沢な機会だと思う。

今後も県内各地で開催予定ですので、皆さんよろしくお祈りします!!



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成27年度
全国200万人
加入!!

補償金額 (保険金額)		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	100,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)

年間保険料		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	430円	650円

保険金をお支払いする主な例



- ボランティア行事用保険 (普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)
- 送迎サービス補償 (普通傷害保険)
- 福祉サービス総合補償 (普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL: 03 (3593) 6824

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763
受付時間: 平日の 9:30~17:30 (12/29~1/3 を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

滋賀の縁塾は分野を越えた「多職種連携のチームづくり」を学びます。

☆今年度の滋賀の縁塾は2本立て☆

「福祉関係者」とひとくりに言っても、それぞれが毎日見ているもの・感じていることはもちろん、普段仕事で使っている言葉から違います。そのような日頃は異なる分野・現場で目の前の人のための支援に取り組む職員たちが集い、困りごとを抱えた本人を真ん中において分野や制度の枠にとらわれない支援を実現するために必要なことを感じあうのがこの縁塾です。「気になっていてもどう行動したら良いのかわからず、迷っているときの羅針盤になる」「支援者仲間の熱意に触れることでパワーをもらえた」等の好評を受け、今年度は圏域ごとに開催中です。



①圏域別研修 「多職種連携のチームづくりを学ぶ」

地域包括ケア、地域に根ざした生活支援を実現する共働の土台についての講義のあと、「要介護高齢者と子どもの世帯で双方に支援が必要」なケース等について事例提供者から話を聞き、関わっている専門職、利用者、家族など様々な立場になり問題意識に共感し、登場人物それぞれを【認めていく共感】と【乗り越えていく知恵】を出し、よりよい連携はどうすればよいのかを考えました。



日常の業務を正しいか間違っているかで判断していたので、先生の「正しいか間違っているかではなく、その時に精一杯やったか」という言葉で気が楽になりました。
(事例提供者より)



②マネジメント研修 「ボトムアップの政策形成をみんなで考えていこう」

こちらは8月5日(水)に開催しました。高齢・障害・児童分野の現場職員と行政、社協から18名が参加。地域福祉の基本的な考えを学び、分野を横断して連携・協働していく必要性、そして、民間福祉の実践を自治体の福祉政策に結びつけ、公私協働の福祉を創っていくプロセスについて学び合いました。



10月以降は、大津会場、東近江会場、甲賀会場で実施予定です。

縁センター会員の皆様のご参加をお待ちしています!

☆縁センター設立以降、実施してきた縁塾は延べ150名が参加しています!

参加者には、介護職員、介護支援専門員、看護師、ボランティアコーディネーター、生活支援員、指導員、自立生活支援専門員、コミュニティワーカー、作業療法士等、様々な専門職が参加しています。同じ地域の専門職が学ぶことから、自分の知らなかった地域の仲間へ気づき、地域で専門職がチームとなって取り組んでいける可能性が膨らみます!

縁センターのホームページがリニューアルしました!!

縁センターのホームページが新しくなりました! スマホサイトも開設し、ますます皆さんの身近になった「滋賀の縁」。モデル事業の進捗状況や開催案内等、随時更新していきますので、ぜひ周りの皆さんと一緒にご覧ください!

ホームページアドレス
<http://www.shiga-enishi.jp>



今年度も引き続き 会員募集中です!

本会の設立趣旨に賛同し、主体的に活動しようと思ってくれる仲間を随時募集しています。規程や申込み等詳細については、下記ホームページよりご覧いただけます。ご参画、お待ちしております!

お問い合わせ先はこちら

滋賀の縁創造実践センター事務局

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内

TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160

✉ enishi@shigashakyo.jp

【ホームページ】<http://www.shiga-enishi.jp>

【Facebook】<https://www.facebook.com/shiganoenishi>

編集後記

「この場所は、母が認知症になったからこそできたご縁。この場ができたことで人生が広がったと感じているし、母には感謝しています。」表紙に登場して下さった男性介護者の集い「中北の家」の代表・小宮さんは嬉々としてこのように話されます。家族の介護のために働き盛りに離職し、1人で介護を抱え込んで結果事件等になってしまう等の悲しいニュースが報じられる現代において、奥様のお母様、奥様、ご自身のお母様の3人を介護し、看取られた小宮さんからこのような言葉を聞いたとき、とても驚きました。介護と聞くと「しんどくて苦しいもの」と思われがちですが、皆さんにかかれば「介護は創意工夫!皆でアイデアを出しあいながら楽しんでやっている」とのこと。男性の自分たちだからこそできることをしっかりと見据え、毎日をいきいきと楽しく過ごす皆さんの笑顔は、とっても若々しくて素敵でした。

滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

①地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)

だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。

【リーディングプロジェクト】(1)「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(2)“滋賀の縁”認証事業

②課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)

一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくります。

③制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。

④国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案

モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成27年9月1日現在)

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会長会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議

■参加法人会員名簿 ※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

<大津>(福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)おおみ福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)唐橋福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)幸寿会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)春風会、(福)真盛園、(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)まほろば、(福)楽樹
<湖南>NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、(福)志津保育園、(福)すぎのこ保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)モンチ優愛会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)よつば会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会
<甲賀>(福)愛心会、(福)あいの土山福祉会、(福)近江ちいろば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、特定非営利活動法人NPOワイワイあぼしクラブ
<東近江>(学)滋賀学園、(福)阿育会、(福)育新会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー、(福)恵泉会、(福)湖東会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会
<湖東>(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)稲朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会
<湖北>(福)愛悠ももの会、(福)柏葉会、(福)カトリック京都司教区 カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん
<高島>(福)近江愛隣会、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)ゆたか会
<県域>(福)滋賀県社会福祉協議会

【個人会員】上野谷 加代子、山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良憲、疋田 由香里、松田 弘、牛丸 昇子、上村 文子

【賛助会員】元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会